

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆書	隷書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
低	テイ ひくい ひくまる ひくめる 教4常①		𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔
伯	ハク おさ 常①	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔
伴	ハン ばん ともなう とも 常①		𠂔	𠂔			𠂔	𠂔	𠂔
佑	ユウ たすける 人①				𠂔				
余	ヨ あます あまる われ 教5常①	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔
餘	②		𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔
伶	レイ 人①		𠂔				𠂔		𠂔
依	イエ 常①	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔

【低】説文の原本にはなかつたらしく、大徐本に新附字として掲載されている。唐代正字もない。旁が「互」の字体もある。ちなみに干祿字書では「互」の字体を「𠂔」とする。隷書に旁が「皇」に似た字体のものがある。中国簡体では最終画は横線ではなく点。

【伯】西周まではニンベンがなく「白」だけ。
 【佑】説文不録。平安中期の桂宮本万葉、江戸期の大日本永代節用無尽蔵、ともに傍の「右」は、横線を先に書いている。
 【余】「余」と「餘」は本来は別の字だが通用する。漱石が両方の字体を書いているのには驚いた。使用例は「持て余してい

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん ころ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
低	低	低	低	低			低	低	低	低	低	低 中国
												低 台湾・香港
伯	伯	伯	伯	伯			伯	伯		伯		伯 中・台・香
伴	伴	伴	伴	伴			伴	伴	伴	伴		伴 中・台・香
佑	佑	佑	佑	佑			佑					佑 中・台・香
余	余	余	余	余	余	余	余	余	余	余	余	余 中国
												餘 台湾
												餘 香港
餘	餘	餘	餘	餘	餘	餘	餘	餘	餘	餘		
伶	伶	伶	伶	伶								伶 中国
												伶 台湾
依	依	依	依	依			依	依	依	依		依 中国・台湾
												依 香港

」、「餘り気の毒だから」、「汽車が余っ程動き出して」、「学資の餘りを」、「余っ程上等だ」、「余計な手数だ」、「余計な減らず口」、「年中持て余して」、「餘り上品ぢやないが」、「餘っ程えらく」、「余っ程辛防強い」、「蚊が餘っ程刺した」、「余計な発議」……さて漱石に使い分けの基準はあるのだろうか。

【依】説文解字の大徐本と段注本の字体が異なる。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆家	隸書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
価	カ あたい		價		倂		價價	價	聖武天皇集
價	人②								
佳	カ よい		佳	佳	佳佳佳佳		佳佳	佳	王勃詩序
倂	カン つよい		倂	倂	倂		倂品	倂	瑠玉集
供	キョウ そなえる とも		供	供	供		供供	供	聖武天皇集
俠	キョウ きやん		俠	俠	俠		俠俠	俠	王勃詩序
俠	人③								
倂	コウ		倂						
使	シ つかう しむ つかい	使	使	使	使	使	使	使	王勃詩序
			使	使	使		使使	使	空海聖教
			使	使					
			使	使					
			使						

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん こころ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
價	價	價	価	價			價	價	價	価		价 中国
	價		價	價								價 台湾・香港
佳	佳	佳	佳				佳	佳	佳	佳		佳 江戸・節用 中・台・香
佳	佳											
		倂	倂									倂 千祿(俗) 中・台・香
		倂										
供	供	供	供	供			供	供	供	供		供 中・台・香
俠	俠	俠	俠	俠			俠	俠				俠 中国
												俠 台湾・香港
			倂									倂 香港 中国・台湾
使	使	使	使	使			使	使	使	使		使 中・台・香
	使			使								
	使											
	使											
	使											

【価】弘道軒に略字があるが、これはいつ作られたものか。
 【佳】江戸版本には傍の「圭」の上の「土」を「大」に書くことがある。咎無し点がつくことが多い。
 【倂】傍が「品」の字体が干祿字書で〈俗〉になっている。草書では「口」が2つ並んだものが点3つになる。「倂」の傍の

下部の点3つを「口」2つの草書と間違えて傍が「品」になったのだろう。
 【使】甲骨と金文にはニンベンがない。草書(十七帖)の字体はニンベンを含むのか、含まないのか？ 江戸版本には草書の字体にニンベンを加えたものがある。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆書	隷書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
侍	シ さむらい はべる		倂	侍	侍	侍	侍	侍	侍
倂	フ あなどる		倂	倂	倂	倂	倂	倂	倂
併	ヘイ あわせる しかし ならぶ		併	併	併	併	併	併	併
係	ジン まま		係	係	係	係	係	係	係
例	レイ たとえる たとえ		例	例	例	例	例	例	例
俄	ガ にわか		俄	俄	俄	俄	俄	俄	俄
係	ケイ かか かか かか つなぐ		係	係	係	係	係	係	係
侯	コウ きみ ごれ ま		侯	侯	侯	侯	侯	侯	侯
俟			俟	俟	俟	俟	俟	俟	俟

【侍】江戸版本では草書が多く使われ、行書は少ない。台湾の明朝体は隣の「寺」の「土」が「士」になっている。

【併】台湾と香港では「並」を使う。

【係】隣の一面目が略されることあり。節用と弘道軒は隣の一面目を左から右に書いている。

【係】古代の字は「冫+矢」。後に加わった「冫」の左ハライと「冫」の縦線が合わさって「冫」になり、「冫」が離れて「係」になる。「係」が正(統)字体、「係」の「冫」が「夫」になった字体が通(用)字体。『陸軍幼年学校用字便覧』では「係」を〈本字〉としている。弘道軒四号には「係」がみつからな

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん こころ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
侍	侍	侍	侍	侍	侍	侍	侍	侍	侍	侍	侍	侍 侍 台湾 中国・香港
	倂	倂	倂	倂	倂	倂	倂	倂	倂	倂	倂	倂 倂 唐賢知章季経 中国・台湾
		係	係	係	係	係	係	係	係	係	係	係 係 段注古文 香港
併	併	併	併	併	併	併	併	併	併	併	併	併 併 江戶・農稼業事 中国
	係											並 台湾・香港
				係	係	係						尽 中国
		儘	儘	儘	儘	儘						盡 台湾・香港
例	例	例	例	例	例	例	例	例	例	例	例	例 中・台・香
俄	俄	俄	俄	俄	俄	俄	俄	俄	俄	俄	俄	俄 中・台・香
係	係	係	係	係	係	係	係	係	係	係	係	係 係 香港 中国・台湾
侯	侯	侯	侯	侯	侯	侯	侯	侯	侯	侯	侯	侯 中・台・香
俟	俟	俟	俟	俟	俟	俟	俟	俟	俟	俟	俟	俟 中・台・香

い。弘道軒三号には「俟」がある。弘道軒2は異体字だろうか？

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆書	隷書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
俊	シュン すくれる 常①		俊	俊	俊	俊	俊	俊	俊
儻			儻	儻	儻	儻	儻	儻	
信	シンのばすのびるまかせるまこと 教4常①	信	信	信	信	信	信	信	信
		信	信	信	信	信	信	信	
		信	信	信	信	信	信	信	
侵	シン おかす 常①	侵	侵	侵	侵	侵	侵	侵	侵
		侵	侵	侵	侵	侵	侵	侵	
促	ソク うながす せまる 常①		促	促	促	促	促	促	促
俗	ソク ならわし 常①	俗	俗	俗	俗	俗	俗	俗	俗
		俗	俗	俗	俗	俗	俗	俗	
便	ベン ピン たよりのすなわち 教4常①	便	便	便	便	便	便	便	便
保	ホ ウ たもつ やすじ 教5常①	保	保	保	保	保	保	保	保
		保	保	保	保	保	保	保	
		保	保	保	保	保	保	保	

【俊】五経文字では「俊」と「儻」は異体字。康熙字典では「俊」と「儻」は別に掲載されているが、「儻」の説明に「同俊」とある。「儻」は説文には見えない。「俊」は干禄字書には見えない。
【信】 傍の「言」はもともと「辛+口」の形で、「辛」は略さ

れて「立」になる。そうすると「信」は「倍」と字体が衝突する。それで漢代に字体を変更したのだろう。
【侵】 干禄字書と五経文字の正字体は同じ字体。説文の大徐本の字体の傍は「帯+又」なのだが正(統)字体楷書でも「巾」を略している。「又」を「丈」に書く例も多い。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん こころ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
俊	俊	俊	俊				俊	俊		俊		俊 俊
		儻										俊
信	信	信	信	信			信	信	信	信	信	信
		儻										信
		儻										信
侵	侵	侵	侵				侵	侵		侵		侵 侵
												侵
促	促	促	促	促			促	促		促		促
俗	俗	俗	俗	俗			俗	俗	俗	俗		俗
		俗										俗
便	便	便	便	便			便	便	便	便	便	便
保	保	保	保	保			保	保	保	保	保	保
		保										保
		保										保

【俗】「谷」の上部はもともと「ハ」が2つ重なったような形。南北朝時代には下の「ハ」がヒトヤネまたは横線のような形になる。漱石は草書を書いている。
【保】「人」と「子」に関係する字とおもわれる。甲骨文では「仔」と字体が衝突する。それを区別するために金文では

「子」の横に線を入れたのかもかもしれない。この線に首も意味をななければ飾符ということになる。この線は産着だという説もある。傍は「口+木」ではなく、「子+ハ」。そもそもカタカナ「ホ」の元字だから、教育漢字のように「木」を書くのはおかしい。台湾の字体に注目。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆家	隸書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
俣	また 人①国								
侶	リョ ロとも 常①		侶			侶侶侶		侶	王勃詩序
侶							侶		
俺	エン おれ 人一新①		俺						
俱	ク クとも ①		俱	俱	俱	俱	俱	俱	王勃詩序
俱	人③			俱	俱	俱	俱		
				俱	俱				
儉	ケン つましい 常①		儉	儉	儉	儉	儉	儉	瑠玉集
儉	人②			儉		儉	儉		
						儉	儉		
個	コ カ 教5常①							個	五経・人部
候	コウ そうろう ちかがう さぶらう 教4常①		候	候	候	候	候	候	王勃詩序
			候	候	候	候	候		
				候	候	候	候		
				候	候	候	候		

【侶】2010年(平成22年)に人名用漢字から常用漢字表に追加された。

【俺】2010年(平成22年)に人名用漢字から常用漢字表に追加された。常用漢字の音訓には「おれ」という訓読みのみで、音読みが載っていない。古い使用例がほとんどない。漱石の

『坊っちゃん』も直筆手書きでは仮名で「おれ(連)」と書いている。

【俱】第一水準だが、常用漢字でも人名用漢字でもないのので人名には使えない。異体字の「俱」は人名用漢字なので人名に使えるがJIS規格の第3水準に登録されている困った字種。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん ところ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
俣												
侶	侶	侶	侶	侶	侶	侶	侶	侶				侶 中・台・香
			俺	俺								俺 段注・人部 中・台・香
俱	俱	俱	俱	俱			俱					俱 中・台・香
俱												
儉	儉	儉	儉	儉	儉	儉	儉	儉				儉 中国
												儉 台湾・香港
			個	個	個	個	個	個	個	個	個	個 台湾・香港 中国
候	候	候	候	候	候	候	候	候	候	候	候	候 中国・香港
												候 台湾

現代は大陸中国も台湾も「俱」。
【儉】「儉」の略字だが、中国では使用例が見えない。日本でも江戸よりも前には使用例が見えない。漱石も正字を用いている。中国簡体の字体は草書の字体。
【個】『五體字類』は「箇」と同字としている。『陸軍幼年学校

用字便覧』も「箇」と同じ字種としてあげている。中国簡体では「個」も「箇」も「个」を使う。
【候】江戸より前は「イ+候」の字体。